

宇田雄一「古典物理学」

るのみとし、それ以外に挙げるべきものがあっても悪しからずと致します。本書のように、物理学の文献のどれにでも書いてあるような部分だけをテーマとする本では、それが許されます。もし、宇田は公共財たる科学的真理で私腹を肥やそうとしている、と批判する者があれば、この本からの私の収益の内の、発見伝達に当たる部分以外の部分を、私はしかるべき団体に寄付しても構わないと思っています。以上は、宇田が本書の著作権を放棄する、という意味ではありません。

本書のどこが従来の本よりも新しいのか(本書の特徴)

何処が新しいかなんて読者の評価に任せるのが常識です。一々書くのはどうかとも思いますが、「なぜお前が書く必要があるのか」と批判されたことがあるので、書いておきます。本文理解の助けにもなると思います。まず新要素を列举します。

——新発明・新発見——

発見：クーロン場中の荷電粒子の落下解(特殊相対論的) 【1d1】 【1d2】 【1d3】

【1d4】 【1d5】 【1e】 § 2-1-3//**技術的発明：**デルタ関数外し § 1-4//セルフ・コンテインドさの判定条件 § 4-3//固有変換群 // § 2-3-1//自然全体の歴史という語
§ 2-5-3//立方格子系の物理的判定条件 § 4-5-3//表現上の可能 § 4-2//理想的な物理理論の条件 § 2-5-3//最自然単位系 § 1-6//**定義：**自然の数学的古典理論・準マッハ模型・マッハ模型 § 2-1-1//擬場形式・場形式・局所性 § 2-2-1//絶対性・一体性・統一 § 2-5-1//相対性原理 § 3-1-9//質量・電荷など(マッハの質量定義案を批判) § 4-2//

——新意見・新学説——

私見：古典物理学への常識的評価をティラー級数で批判 § 2-1-6//相対的関係という語の扱い § 3-1-9//マッハ以前の相対性原理を不完全だと先驗的に断定は出来ない § 3-1-9//時空の同一性 § 3-2//最大の指導原理 § 2-5-3//物理理論の限界は M^F の存否レベルという予想 § 2-5-3//時間因果性は第二義的なもの § 2-5-3//物理理論の諸特徴の恣意性について § 4-4//エーテル理論の評価 § 3-1-9//幾何学語で書く一般相対性理論の基礎未定義語の分析 § 3-2-1//言語習得には言語外経験が必要 § 4-3//電磁場の実在性に言及 § 2-2-1 § 2-2-4//質点よりも電磁場の方がうつろとは言えない § 4-1//「原因」を最基礎概念と見なさない § 2-1-6//因果律の意味②の改良案 § 2-1-6//原因の方が結果よりも良い § 2-1-6//**私説：**進化論 § 2-4-